

特集

# 7月参院選詳密 野党のつぶし合いで 岸田首相に「黄金の 安倍死亡で党内力 政局運営の懸念材



▲岸田文雄首相

# 分析 自民大勝 3年」 学が変化 料



▲安倍元総理銃撃事件を伝える北海道新聞7月9日付朝刊

今年最大の政治決戦となった参院選は、自民党が改選過半数を制して終わった。最終盤、遊説中の安倍晋三元首相が凶弾に倒れる衝撃的な事件が発生。自民党に同情票が集まったこともあるが、自民大勝の主因は野党が互いにつぶし合った敵失にほかならない。  
これで岸田文雄首相は衆院を解散しなければ、国政選挙に縛られない「黄金の3年」を手に入れた。政権基盤が固まったかに見えるが、影響力のあった安倍氏の死亡で党内力学が大きく変化。政局運営が難しくなる可能性もある。

(文中敬称略、8月1日現在)

## 「自民大勝」の要因は…

まず各党の獲得議席である。自民63(8増)、立憲民主17(6減)、公明13(1減)、維新12(6増)、国民民主5(2減)、共産4(2減)、れいわ3(3増)、社民1(増減なし)、NHK1(1増) 参政1(1増) 無所属5(3減) だ。  
自民は選挙の帰趨を握る「1人区」で28勝4敗と野党を圧倒した。6年前と3年前の参院選では野党がすべての1人区で候補を一本化。それぞれ11勝、10勝して存在感を示した。だが、今回、一本化できたの

は11選挙区だけ。自民大勝につながった。もともと、野党は一本化できた岩手、新潟、山梨でも自民に競り負け、退潮傾向は否めない。中でも現職を次々に落とした立憲の窮状は深刻だ。比例得票で維新に抜かれ、野党第1党の立場すら危うくなっている。  
代表泉健太が進めた対決型から政策提案型への転換が有権者の不評を買ったのは間違いない。厳しい政府追及で東京選挙区では常に1位を誇った元副代表蓮舫が6年前より45万票も減らし4位に沈んだのは、その証拠である。

それでも泉は選挙後「踏みとどまった」と強弁し、代表辞任を否定した。だが、党内には責任論が噴出。泉は党役員の入替えで逃げ切ろうとしているが、このまま代表の座に固執すれば亀裂が深まり、分裂に発展しかねない。

## 議席倍増の維新にも悩み

一方、議席を倍増させた維新でも、代表の大阪市長松井一郎が開票直後の会見で、代表辞任を切り出した。  
来春の政界引退は既定路線だったが、半年以上も前の辞任は想定外。慌てて代表選を8月中に行うことを決めたが、行方は混沌としている。

知事吉村洋文は不出馬を明言。国会議員団を束ねる共同代表馬場伸幸が有力視されているが、松井や吉村に比べ知名度や発信力は格段に落ちる。

それでもなくても維新は関西中心の地域政党から全国政党への脱皮を目指しながら、今回の参院選では京都、東京で議席に届かず、限



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)